

和歌山病院での実習を終えて



大山 愛理

私達L班は9月11日から二日間、臨床実習の一環として、和歌山病院で実習をさせて頂きました。臨床実習は半分終わりましたが、私達の班は大学病院以外で実習をしたことがはまだなく、新鮮な気持ちで和歌山病院へ向かいました。

スケジュールを見たときに、かなりかつかつに実習スケジュールが組まれているぞ！とびっくりしましたが、せっかく受け入れてくださっているのだから教えて下さることは全てを学んで帰ろう！という気持ちで二日間の実習に臨みました。終わってみると、すごく短い時間で物足りない気持ちでいっぱいです。学んだこと全部をここに書き切ることが出来ませんので、印象に残ったことを書いていきたいと思います。

まず、南方院長には主に、胸部レントゲンの読み方についてセミナーをして頂きました。普段の臨床実習で胸部X線はよく見るのですが、“正常”がわかっていないため胸部X線を読影するのが苦手で、毎度担当患者さんの読影所見をレポートに書くとき、悩み困っていました。今回南方院長に、胸部X線と影絵との違いは何か？胸部X線で線と認識されている部分はどこか？白く映るもの、黒く映るものは何か？などの質問をして頂き、胸部X線の根底部分をしっかり自分の頭で考え、理解することで、まずは胸部X線によって表されるものは何かを知りました。胸部X線の“正常”を理解することは、異常を見逃さないために重要なことだと思います。これまでと違い“正常”を知った今、違った視点で興味を持って担当患者さんのX線を読むことが出来そうです。

駿田副院長にして頂いた”感染症としての結核を理解する” “肺結核の病態・診断・治療”というセミナーでは、結核の感染経路や、どのようにして症状が出るか、などを学んだり、結核を患っている患者さんのレントゲン写真を見せて頂いたりしました。四回生の時、一度大学に授業をしに来ていただいたことがあるのですが、改めて講義を受けると、結核菌は肺胞まで到達して初めて感染が成立するということや、しぶきが鼻や喉についただけでは感染、発病しないといった、結核という疾患を勉強する上で大切なことをもう一度学びを深める良い機会になりました。感染経路を深く学ぶことは、今後医療者になる者として、自分の身を守るためにも非常に大切なことです。結核に限らず、他の感染症でも同じことが言えると思うので、今一度感染症の感染経路について勉強し直そうという気持ちになりました。

また、結核病棟に入らせて頂いたのですが、想像以上に開放的な雰囲気、構造も一般病棟と似ており、治療を長く必要とする患者さんの居心地の良さを第一に考え、建てられた病院だと改めて感じました。また、私はこれまでN95マスクをつけたことがなく、実習に来る前までは、本当にN95マスクをただけで感染予防になるのかと不安に感じることもありました。しかしスタッフの皆様が正しいN95マスクの装着方法を教えて下さり、またこれまでスタッフが結核に感染したことがないという話をして下さり、N95マスクを装着することで結核はしっかり予防出来る病気であるということ、そして、結核患者さんと接する際、正しい方法で感染を予防することは、他に入院している患者さんに感染を広げないという点でもとても大切なことだと学びました。

二日間という短い時間でしたが、先生方が懇切丁寧に指導して下さい、実りの多い臨床実習になりました。最後になりましたが、病院長の南方先生、副院長の駿田先生をはじめとする職員スタッフの皆様にご挨拶申し上げます。この度は、本当にありがとうございました。